

セブン&アイグループのSDGsへの取り組み

～地域コミュニティと環境～

2023年3月30日
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
執行役員
経営推進本部
サステナビリティ推進部 シニアオフィサー
釣流 まゆみ

①小売業を取り巻く経営環境

②重点課題（マテリアリティ）の特定

③地域社会との取り組み事例



①小売業を取り巻く経営環境

②重点課題（マテリアリティ）の特定

③地域社会との取り組み事例



私たちの事業基盤は地域社会

店舗数
約**22,700**店
(国内)

お店があって…

ご来店頂き…

来店客数
約**2,220**万人/日
(国内)

グループ売上
14兆2432億円

お買い上げ頂き…

様々な事業で…

CVS、SM
百貨店、専門店
金融サービス等

198社

店舗数・客数・売上は22年2月末時点

お客様の生活の場（地域社会）があっこそ、私たちの事業が成り立つ
地域社会が持続可能なものになるよう「サステナブル経営」推進が必要

小売業を取り巻く経営環境:コロナ、ウクライナ問題を経てよりVUCAな時代に

変わらない底流

- ✓ 環境課題の深刻化
- ✓ サステナビリティへの意識の高まり
- ✓ テクノロジーの進展(データ社会)
(サイバーリスクの深刻化)
- ✓ 価値観の多様化(個の時代)

足もと、加速する変化

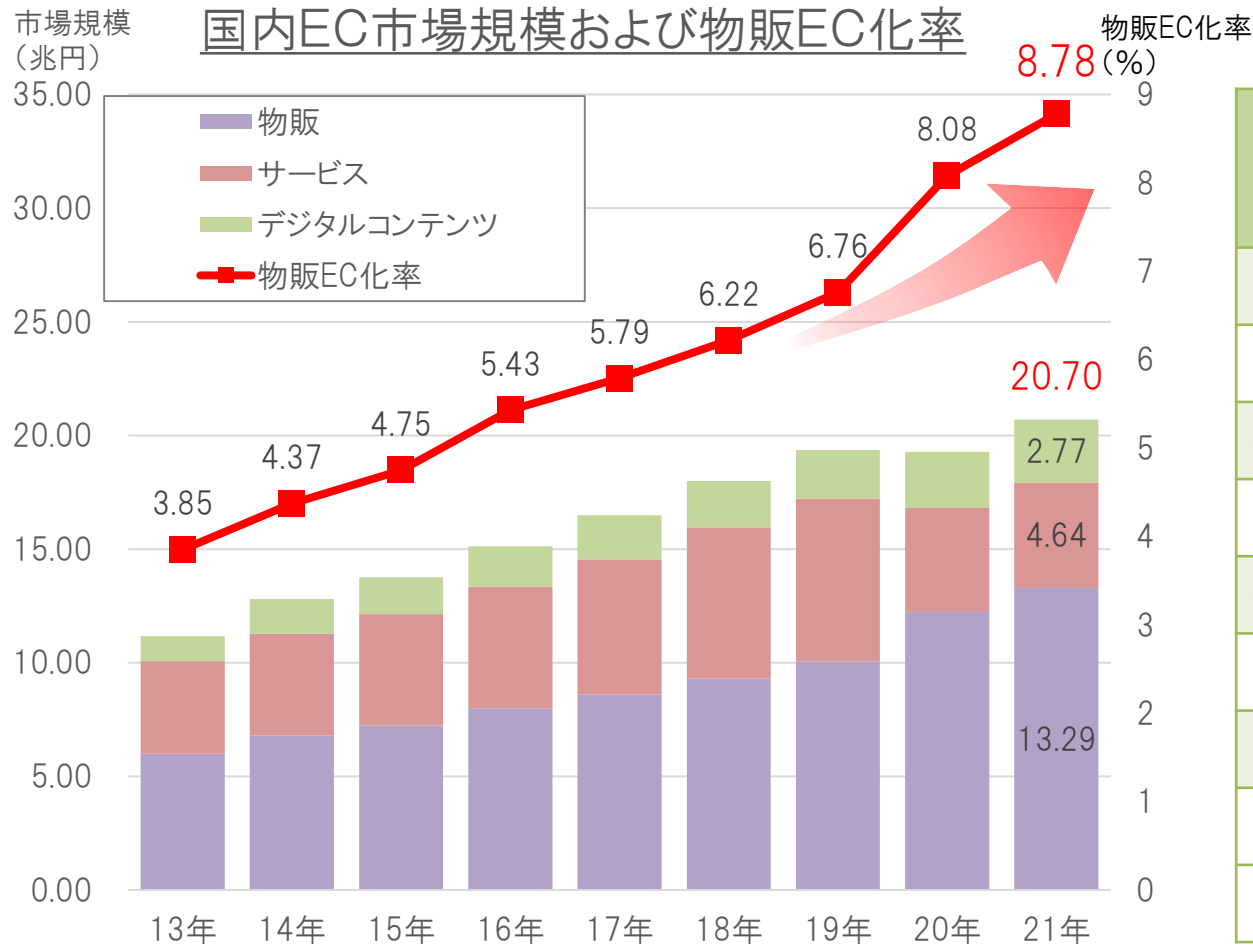
- ✓ かつてない全世界的なインフレ
- ✓ 地政学的リスクの顕在化
(サプライチェーン強靱化の必要)
- ✓ EC・宅配の大きな加速
- ✓ 食のニーズの多様化
- ✓ 健康、安全・安心への想い
- ✓ デジタル・非接触の加速
(キャッシュレス、テレワーク等)

国内の社会構造

- ✓ 人口減少・少子高齢化
- ✓ 都市部への人口集中、地方の過疎化
- ✓ 家事・食の外部化(生活スタイルの変化)
- ✓ 働き方の多様化

デジタル社会の進展によるお買物やサービスの変化

- ✓ コロナをきっかけに、EC市場規模の成長がさらに加速
- ✓ コロナで減速したサービス系EC(チケット、旅行等)も、徐々に回復の兆し



サービスの主な内訳: 外食(デリバリー)、旅行、チケット、金融、その他(保険、教育費)
 デジタルの主な内訳: 電子書籍、有料音楽・動画配信

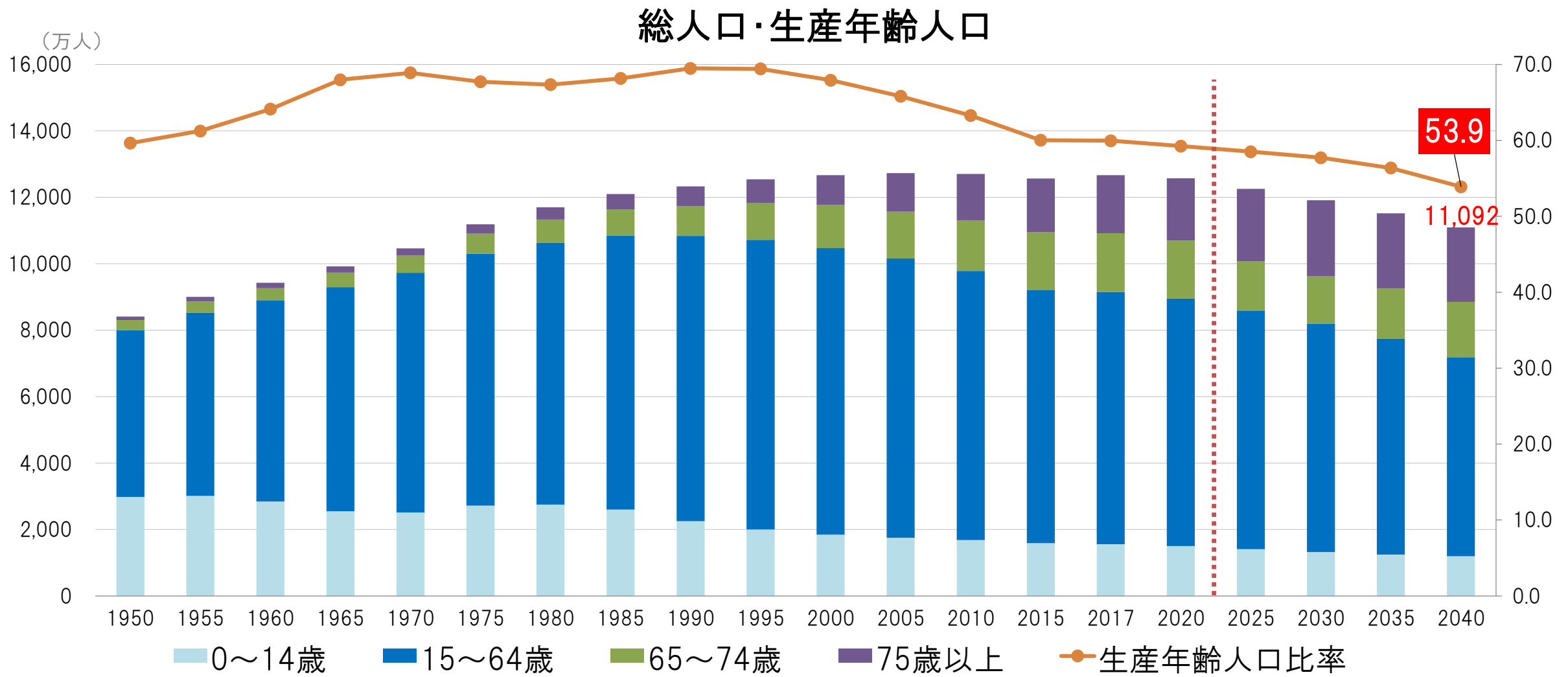
物販系EC市場規模(カテゴリ別)

カテゴリ	EC市場規模 (億円)	EC市場規模前年伸び率 (%)	EC化率 (%)
食品、飲料、酒類	25,199	14.10	3.77
生活家電、AV機器、PC・周辺機器等	24,584	4.66	38.13
衣類・服飾雑貨等	24,279	9.35	21.15
生活雑貨、家具、インテリア	22,752	6.71	28.25
書籍、映像、音楽ソフト	17,528	7.88	46.20
化粧品、医薬品	8,552	9.82	7.52
その他	6,964	8.42	1.96
自動車、自動二輪車、パーツ等	3,016	8.33	3.86
合計	132,865	8.61	8.78

2021年度電子商取引に関する市場調査 (経産省)

高齢化、人口減少に伴う生活拠点の縮小①

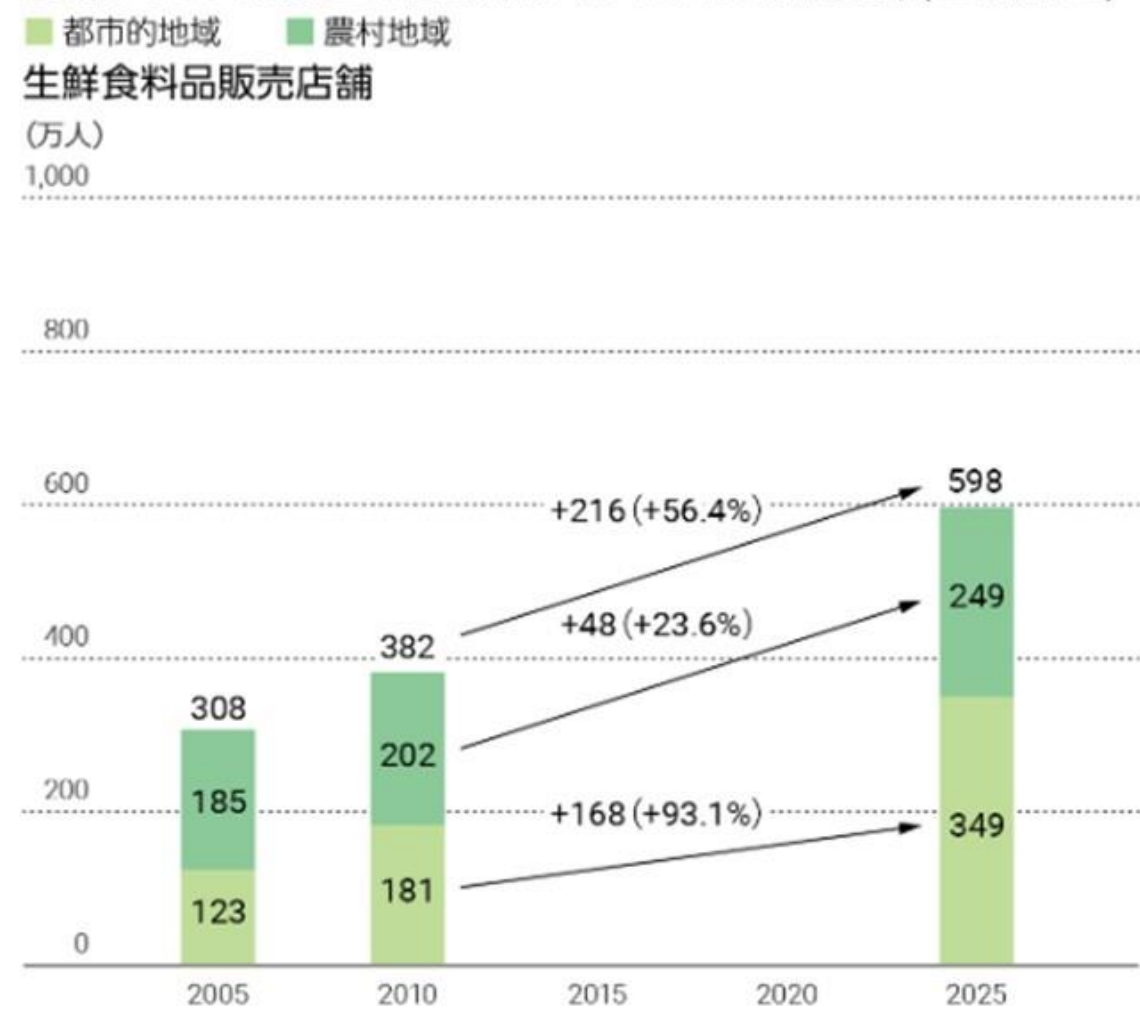
✓ 2040年には、総人口は約1.1億人まで減少(65歳以上が約35%)。生産年齢人口も全体の約半分に。



出典: 国立社会保障・人口問題研究所

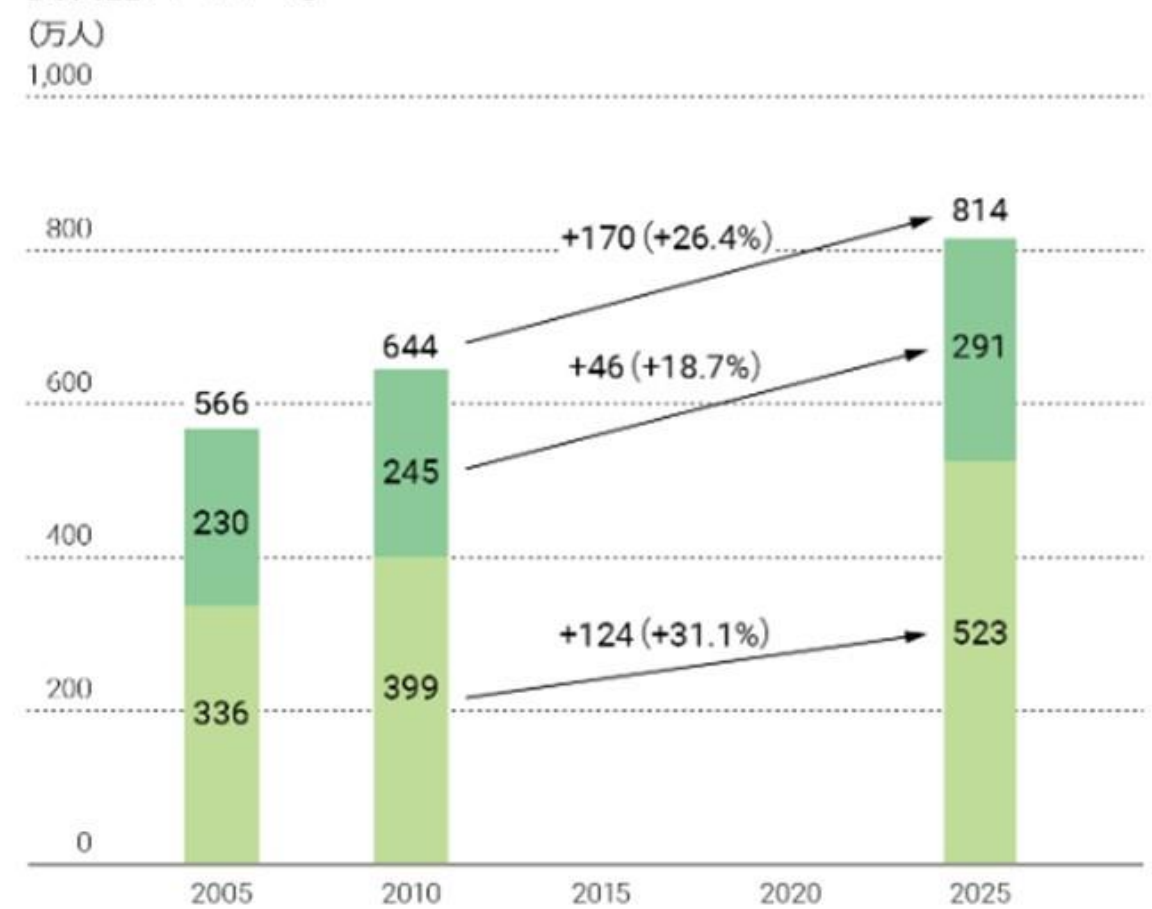
高齢化、人口減少に伴う生活拠点の縮小②

店舗まで500m以上で自動車がない人口の将来推計(65歳以上)



出典:農林水産政策研究所

食料品スーパー等



グループ重点戦略の全体像

常にお客様の立場に立って、新たな体験価値を提供



①小売業を取り巻く経営環境

②重点課題（マテリアリティ）の特定

③地域社会との取り組み事例



社是

1972年～























私たちは、**お客様**に信頼される誠実な企業でありたい。

私たちは、**取引先、株主、地域社会**に信頼される誠実な企業でありたい。

私たちは、**社員**に信頼される誠実な企業でありたい。



重点課題の改定:7つの重点課題と具体的な取り組み

新しい重点課題	関連する具体的な取り組み例
<p>1. お客様とのあらゆる接点を通じて、地域・コミュニティと共に住みやすい社会を実現する</p>  	<p>1. 地域社会に根差した経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ネットコンビニ・ネットスーパー・セブンお届け便 ✓ 行政サービス 自治体と連携した地域商品の開発
<p>2. 安全・安心で健康に配慮した商品・サービスを提供する</p>  	<p>2. 安全で豊かな社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康に配慮した商品の開発 (栄養バランス・減塩) ✓ 品質管理体制の強化
<p>3. 地球環境に配慮する、脱炭素・循環経済・自然と共生する社会を実現する</p>       	<p>3. 環境に配慮した経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境配慮型店舗の開発 ✓ PETボトル循環型リサイクル、リサイクル素材容器の使用 ✓ 食品ロス削減、食品廃棄物リサイクル ✓ 認証商品の取扱い拡大 ✓ 水使用量の削減
<p>4. 多様な人々が活躍できる社会を実現する</p>  	<p>4. 色々な価値観・ライフスタイルを認める社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子育て支援・次世代教育支援 ✓ ノーマライゼーション・ユニバーサルデザイン
<p>5. グループ事業を担う人々の働きがい・働きやすさを向上する</p>   	<p>5. やりがいと達成感を得られる会社に</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 人財育成・対話によるエンゲージメント向上 ✓ ワークライフバランス・障がい者・外国人雇用
<p>6. お客様との対話と協働を通じてエシカルな社会を実現する</p> 	<p>6. お客様と一緒に地域を豊かに</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ レジ袋や使い捨てカトラリーの削減 ✓ お客様への啓発・協働 (手まえどり、フードドライブ)
<p>7. パートナーシップを通じて持続可能な社会を実現する</p>     	<p>7. お取引先様と一緒に豊かな社会を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ お取引先CSR監査 (強制労働・児童労働の撤廃) ✓ NPO・NGOとの協働、異業種・同業種の協業

①小売業を取り巻く経営環境

②重点課題（マテリアリティ）の特定

③地域社会との取り組み事例



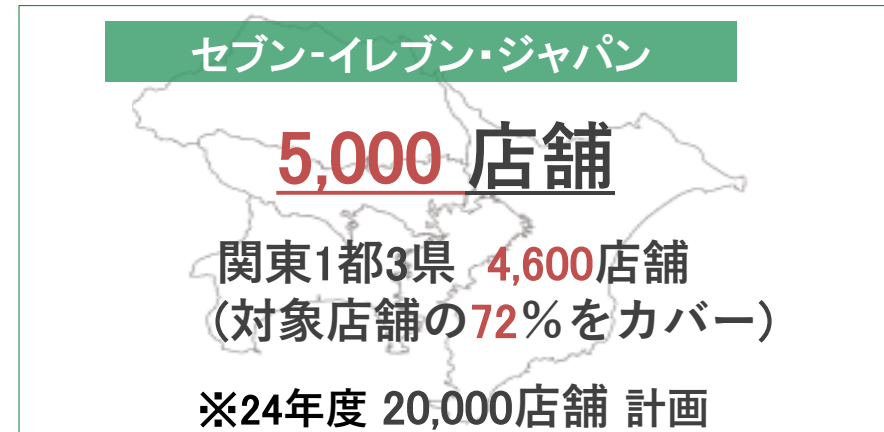
7 NOWデリバリー・プラットフォーム

7 NOWの提供価値



- 女性の社会進出による家庭と仕事の両立や、高齢化・お買い物に不便を感じる方など多様化する社会課題に応える
- 店舗の在庫をスマホでリアルタイム連携でき、物理的にいつでもどこでも便利を提供
- 30分以内、業界トップクラスの配達時間

22年度展開計画



セブンあんしんお届け便

・セブン-イレブン・ジャパンは、移動販売サービス「セブンあんしんお届け便」を1道2府37県で109台運用しています。(22年2月末)

・独自に開発した販売設備付きの軽トラックで、日常のお買物に不便なエリアや移動手段にお困りの高齢者が多い地域を中心に巡回しており、常温から冷凍品まで、食品や日用雑貨など約350アイテムを積載しています。



セブンあんしんお届け便

イトーヨーカドーとくし丸

・イトーヨーカドーは、2020年4月から株式会社とくし丸と連携して移動販売車「イトーヨーカドーとくし丸」1号車の運行を南大沢店で開始しました。現在、45市区町村で75台が運行しています。(22年2月末)

・イトーヨーカドーでは、約400品目1,200点の商品を移動販売車へ積み込んで、お客様のご自宅の近くで販売する移動スーパーの取り組みを通じて、お買物に不便を感じているお客様を支援するとともに、地域と連携しながら見守り活動に関する事業を進めています。



イトーヨーカドー とくし丸

重点課題1 地域防犯対策、多様なお客様へのサービス

セーフティステーション活動(SS活動)

セブン-イレブンでは、年中無休、24時間営業という店舗特性を活かして、女性・子どもの駆け込みや高齢者保護、強盗・万引き・特殊詐欺被害の防止、災害や事故、急病人への対応など、安全・安心を見守る地域の拠点として「セーフティステーション活動(SS活動)」を実施。

■ 安全、安心なまちづくりに協力

- 防犯対策 ①自主防犯(強盗・万引きなどの防止対策)体制の強化
- 防災対策 ②緊急事態(災害・事故・急病人など)に対する110番、119番
- 安全対策 ③女性・子どもなどの駆け込みへの対応
- ④高齢者・身体障がい者の方への買物のお手伝いと連絡
- ⑤地域顧客への安全情報の発信、提供
※警察署・交番・交通安全協会・消防署などとの連携



店舗ポスターにて活動を周知

視覚障がいのあるお客様でも操作しやすいATMの開発

セブン銀行では、音声案内に沿ってインターホンのボタンを操作することで、お取引ができる音声ガイダンスサービスを実施。

提携する500社以上の金融機関のカードで対応。音声ガイダンスのシステムは、視覚障がいのある方にご意見をうかがい、操作性を検証しながら開発。

また、誰もが使いやすいATMを目指して、セブン-イレブン店内のATMに杖・ドリンクホルダーを設置。



音声ガイダンスサービス



杖・ドリンクホルダーを設置したATM

認知症サポーターの育成

出店地域において認知症の方とその家族が安心して暮らせる街づくりを支援するために、従業員に「認知症サポーター養成講座」の受講を推進。グループ24社累計で41,284人。

イトーヨーカドーは、2022年3月に「日本認知症官民連携協議会の認知症バリアフリー宣言」に賛同。宣言の中で全従業員に占める認知症サポーターの割合を「2022年度までに50%、2023年度までに75%、2024年度までに100%にする」という目標を設定。(2021年度12,000人)



認知症サポーター養成講座

認知症本人ミーティング

デニーズでは「認知症本人ミーティング」、実施地域を拡大。
(5 自治体 6 店舗)

認知症本人ミーティングは、認知症と診断されたご本人又は認知症の不安をお持ちの方に対し、情報交換をする機会を設けることで、ご本人からの発信を支援するとともに、様々な意見に基づき必要なサービスや地域づくりを検討する場として、多くの自治体で開催。



認知症本人ミーティング

行政サービス(各種証明書発行)

セブン-イレブン・ジャパンでは、946の市区町村(2022年5月末現在)と連携し、店内のマルチコピー機を利用して住民票の写しと印鑑登録証明書の発行サービスを提供。他にも戸籍証明書や税の証明書の発行にも対応するなどサービスを拡充。

2022年2月からはマイナンバーカードの署名用パスワードを初期化・再設定できるサービスも開始。これらサービスは、マイナンバーカードをかざす簡単な操作で夜間や休日でも利用可能。



コピーやプリント、各種証明書発行、保険加入などでもできるマルチコピー機

店舗内に選挙の投票所を設置

イトーヨーカドー、そごう・西武では、自治体と連携して店舗内に投票所を無償で設置。2021年度は、イトーヨーカドー21店舗、そごう・西武4店舗で実施。店内ポスターの掲示や店内放送、レシートへの印字などで告知。

市町村合併による投票所の減少や投票率の低下、さらに改正公職選挙法の施行で選挙権年齢が満18歳以上へ引き下げとなったことに伴い、投票率の向上を目的に連携。



イトーヨーカドー店舗内に設置した投票所

重点課題1 社会インフラとしてのサービスの拡充

自治体との連携を推進

地域の活性化に向けて、各自治体と地産地消や高齢者支援、健康増進、環境保全など、幅広い分野で連携する「**包括連携協定**」の締結を推進。

店舗営業時やお届けサービスの中で、高齢者などの異変を察知した際に自治体と連携して対応することや、認知症サポーター養成への協力などの活動に関して自治体と連携する「**見守り協定**」の締結も推進。

そのほか、「**物資支援協定**」を締結することで災害時の迅速な地域支援に備えるとともに、可能な範囲で水道水やトイレ使用、周辺情報を提供する「**帰宅困難者支援協定**」を締結。

自治体との包括連携協定数(事業会社別)

	2020年2月末	2021年2月末	2022年2月末
セブン-イレブン・ジャパン	184	194	223
イトーヨーカドー	56	56	79
ヨークベニマル	10	10	11
ヨーク	4	4	4
そごう・西武	13	12	12
セブン&アイ・フードシステムズ	3	3	3
合計	270	279	332

重点課題1 地域活性化に貢献する商品の発売

地域の食材を使おう！プロジェクト

地元の味や食文化を大切に、**地域の食材を使用した商品を開発**。また、コロナ禍で余剰食材が発生中、食品ロスを削減のために地域の食材を使った地域商品を各地で発売。

食卓を通じて、地域の価値を伝えます
地域の食材を使おう！プロジェクト
 消費者の皆さまと一緒に作りましょう

食ロス問題を「地域商品」販売で解決の一例

【北陸・新潟】
 食材...富山湾産ホタルイカ、白えび、能登牛
 商品...パスタ、おにぎり、弁当等

【中国】
 食材...藤山(ひるぜん)ジャージー牛乳
 商品...スイーツ等

【九州】
 食材...大分県産にら
 商品...弁当

【四国】
 食材...小豆島手延べそうめん島の光
 商品...麺類

【北海道】
 食材...北海道産帆立
 商品...おにぎり等

【東北】
 食材...比内地鶏、仙台牛
 商品...弁当、おにぎり

【北関東】
 食材...とちぎ霜降高原牛
 商品...おにぎり、弁当等

【東海】
 食材...真鯛、赤しそ、生のり、伊勢茶
 商品...おにぎり等

「海の幸ベスカトーレ(富山湾産ホタルイカ使用)」
 (セブン-イレブン・ジャパン)

「やちパンプロジェクト」千葉県八千代市の高校生と考案したパン(ヨーク)

地場農産物

採れたての新鮮な野菜を近隣の店舗でコーナー化して販売。輸送距離の削減でCO2排出量の削減にも貢献



商品の販売を通じて地域の生産者・地域経済の持続可能性向上に貢献

環境宣言(2019年5月発表)



GREEN CHALLENGE 2050

4つのテーマを定め、2050年までに目指す姿を宣言します。

- 目標1 実質 0% CO₂排出量削減** (Scope 1+2)
- 目標2 100% プラスチック対策**
- 目標3 75% 食品ロス・食品リサイクル対策**
- 目標4 100% 持続可能な調達**

4つのテーマで、2050年の目指す姿を発表

- ・CO2排出量削減
- ・プラスチック対策
- ・食品ロス・食品リサイクル対策
- ・持続可能な調達

重点課題3 パートナーシップで取り組む資源循環

プラスチック資源循環

■ペットボトル回収機(回収量及び設置台数)



セブン-イレブンをはじめ、グループ各社の店舗に

合計3,174台を設置(2023年2月末現在)

2022年度は**合計約12,400t、4億7千万本**相当回収

■サーキュラーエコノミー



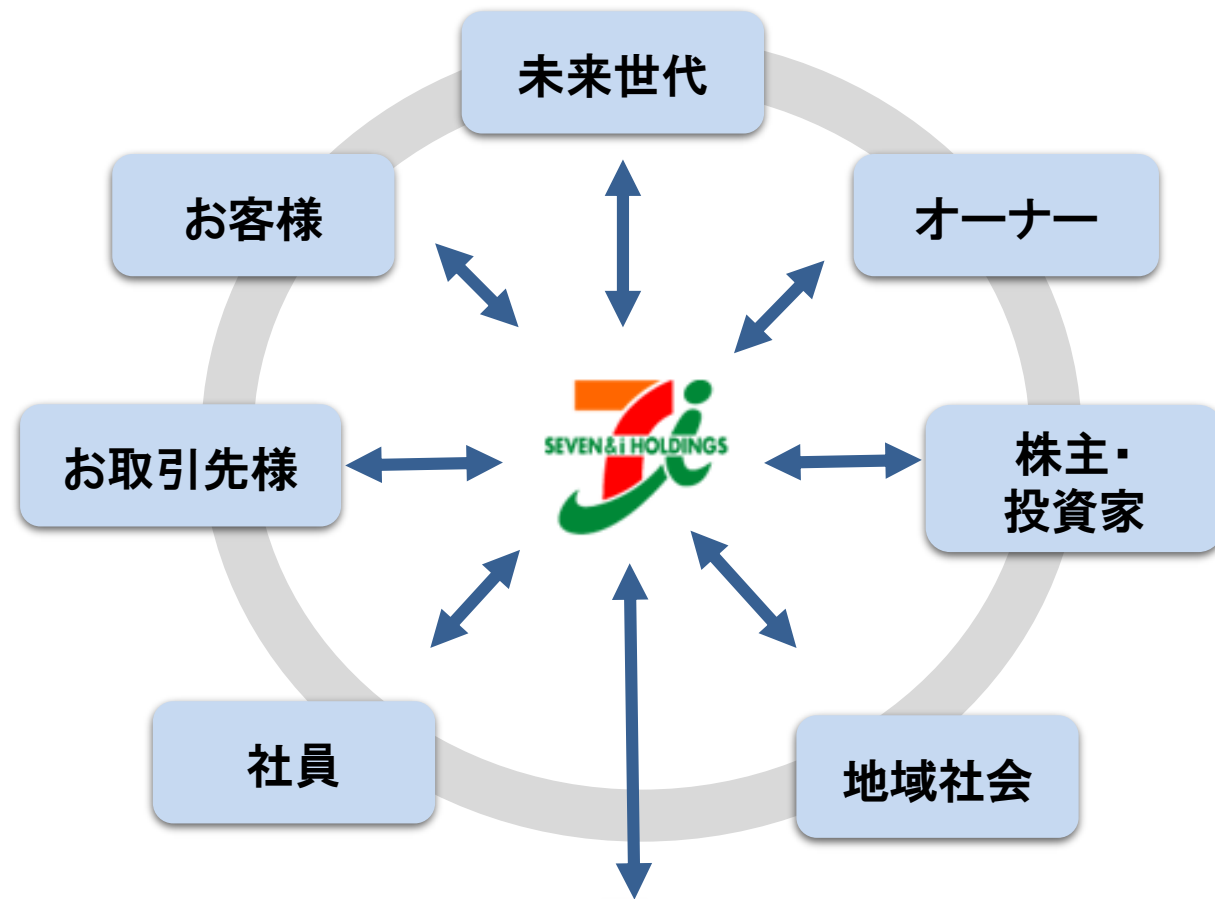
パートナーシップで目標を達成しよう

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



パートナーシップで 目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



地球環境